



ルーテル学院だより

NO.145
2020.12.1

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611 FAX: 0422-33-6405
発行人 石原 基夫

授業探訪 「心理学」



松田 崇志 助教

〈専門分野〉
認知心理学、高齢者心理学
〈主要担当科目〉
心理学、心理学概論、心理学実験
心理学研究法Ⅰ（データ解析）
心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）

この授業ではどのようなことを学ぶのでしょうか？

「心理学」では、心の働きやその仕組みについて理解するために、心理学のさまざまな領域について紹介していきます。主に、私たちが物を見たり、認識したりする際の「知覚」や「注意」、物を覚えたり、思い出ししたりする際の「記憶」、言葉を理解したり、話したりする際の「言語」、何かを考えたり、推測したり、判断したりする際の「思考」、ある行動を獲得したり、ある行動が変化したりする際の「学習」、喜怒哀楽を感じたり、やる気を出したりする際の「感情」や「動機づけ」、人間が生まれてから死ぬまで変化する「発達」といった心の働きについて、動画の視聴やミニ実験を入れながら、基本的な知見を学んでいきます。

授業内でのミニ実験とはどのようなことをするのでしょうか？

「心理学」の授業では、私たちが物を見るとき、実物とはズレが生じる「錯視」という現象の代表的なものを体験

してもらったり、せっかく覚えたものを思い出せなくなってしまう原因や記憶がいかに正確なものを体験してもらおう「記憶」実験もあります。ほかにも、私たちの「推論」が必ずしも合理的な結論を導くわけではなく、状況や感情に左右されるという「思考」に関する体験もしてもらいます。このように、ただ授業を聞くだけではなく、実際の体験を通して、それぞれのテーマに対する理解を深めてもらいます。

心理学とはどのような学問なのでしょうか？

心理学は、心の働きやその仕組みについて科学的に探究していく学問です。心理学で扱う「心」とは、多くの人が想像する「考える」や「思う」だけではなく、より広く、私たちが周囲の世界からの情報を受け取ったり、理解したり、周囲の世界に働きかけたりするための精神的な作用のことです。例えば、先ほど挙げたような「知覚」「記憶」「言語」「思考」「学習」「感情」「発達」がありますが、この他にもさまざまな「心」があります。

心の働きと言っても、目には見えませんよね。

そうですね。心の働き（例えば、「感情」）には、実体がなく、それ自体を直接観察し、測定することは困難です。そこで、心の働きを反映していると考えられる行動（例えば、「表情」）に注目します。このような行動は直接的に観察し、測定できますので、心理学では、実験・調査・観察・面接といった方法で行動を客観的に測定し、

データを収集し、数学的な手法で分析することによって、その背後にある心の働きを明らかにしていきます。

心理学を勉強するどのようなことに役立つのでしょうか？

私たちの行動の基礎には心の働きがあるため、心理学を勉強し、さまざまな心の働きを理解したり、考えたりのようになるれば、自分や他者の行動の意味を知ることができ、自分自身や他者についてより深く理解するためのヒントを与えてくれると考えられます。また、心の働きは私たちの日常生活を支えているものであり、心理学は日常生活と結びついた学問であると言えます。

たしかに、毎日の生活で起きている心の働きを理解できたら面白いですね。

そのため、心理学を学ぶことによって得られる専門知識は日常生活に応用できると考えられます。例えば、心理学には、対人関係やコミュニケーションについて学ぶ分野がありますが、その知識をいかせば、より良い人間関係を構築できるようなになるようにもなります。



オープンキャンパス模擬講義の様子

かもしれません。心理学の専門知識は私たちの日常生活をより豊かにしてくれる可能性を持っていると考えられています。

子ども支援コース2020年3月卒業
特定非営利活動法人ミューワークス M E W
社会福祉士 精神保健福祉士 小澤 満喜

日々の業務の中でその認識が甘くなってしまうことがあり現在の私の課題だと感じています。

現在は武蔵野市にある精神障がいのある方を対象とした就労継続支援B型の事業所で精神保健福祉士として働いています。

日々の仕事では、利用者さんと一緒に作業し、コミュニケーションをとりながら利用者さんの状況を把握し、分からないことや運営上必要な業務などを先輩方から教えてもらいながら働いています。特に、通所施設ということもあり、利用者さんにとって働く場所、生活する場所であることから日々の作業やコミュニケーションを通して気持ちや体調の変化に気づけるよう意識しています。

利用者さんはそれぞれ様々な背景を持ち、考え方や価値観、特性を持っています。そのため、コミュニケーションの取り方や見るべき点も異なるのですが、

ルーテル学院大学では、多くのことを学びましたがその中でも特に良かったと思うことは、大切な価値観を学べたことだと思います。傾聴や共感的姿勢、受容などは対人援助職として当たり前のことかもしれませんが、それらをしっかりと時間をかけて授業の中で扱われ友人や先生方と話し考えることができるのはルーテルならではの醍醐味で、現在働いている中で最も大切で役立っていることだと思います。現場の業務の中で悩んだり迷ったりすることも多いですが、大学で学んだことを思い出して初心に戻って、学んだ事を職場で活かして頑張りたいと思います。

最後に、このような時勢ではありますが皆さまの学生生活が充実したものであるようお祈りしています。

卒業生の声

福祉相談援助コース2020年3月卒業
横浜市職員 高橋 未咲

私は、現在横浜市職員として生活保護のケースワーカー業務についています。

研修が終わり各区役所に配属されたその日から、担当ケースが割り振られ、即戦力として働いています。今年度は85世帯ほどを担当し、毎月の生活保護費の算定や、さまざまな生活支援などを行っています。転職や引越越し、仕事の増減などによって変化する保護費を毎月正確に算定していくことや、それぞれの生活実態を把握するための家庭訪問、業務量の多さに、こなしていく仕事になりがちですが、一人ひとりの話に耳を傾け、寄り添いながら支援できるように心がけています。一言で生活保護受給者といっても、仕事や家族構成、年齢や病気・障害など、状

況は様々です。ですから寄せられる相談も多種多様です。これにしっかりと対応していくためにルーテル学院大学で身につけた基礎知識が大いに役立っています。また、関係機関がどのような役割を果たしているのかという知識も、社会資源に効果的につなげていくために重要なものとなっています。

生活保護ケースワーカーという仕事は、多様に展開される社会資源を一人ひとりの利用者に確実に届けていくことではないかと感じています。日々の経験を大切に積み上げていきながら、ルーテル学院大学で学んだ社会福祉士としての使命を忘れずに業務に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、学生の皆さまが、それぞれの力を更に高め、活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



2019年に撮影

「ハイブリッド型授業で学生にさまざまな機会を保障」

教授 福島喜代子

本学は「誰かの役に立ちたい」、その想いを実現するための大学です。創設以来、学生と教職員との距離が近く、キャンパス全体で親密なコミュニティをつくってきました。学生が対面式の授業を受けること、他の学生と交流する機会を保障するために……。知恵をしばり、後期は「ハイブリッド型」の授業を提供することとしました。

●午前の1・2限は「遠隔授業」。課題配信型の授業も同時双方向型のZoom等を活用した授業もあります。通勤ラッシュを避けられます。●2限と3限の間（昼休憩）を2時間半。2限の遠隔授業を自宅ですべて受けてから通学しても、キャンパスで開かれる3限の通常授業に間に合うようになります。

●3・4限は美しいキャンパスでの通常授業。ゼミや参加型の授業をこの時間帯に提供します。●第5限は課題配信型の遠隔授業。

コロナウィルス対応で歴史に残る2020年度、ルーテル学院大学はこのように、年度当初の時間割を組み直し、質の高い教育の提供に努めています。

実習報告

精神保健福祉援助実習 現場での実践経験を 積み重ねること

振り返ることの大切さ

福祉相談援助コース4年 下田 拓実

私は、精神保健福祉士の受験資格取得のため、精神科病院で12日間の実習を行いました。

実習では、「病院内で入院生活を送っている患者さん一人ひとりのニーズに見合った支援は何かを考え、理解すること」を全体目標とし、閉鎖病棟で生活されている複数の患者さんと面会を行い、精神保健福祉士に求められる相談援助技術の習得と向上に挑戦してまいりました。実習中に私が面会を担当させていただいた患者さんは、統合失調症・アルコール依存症・

ソーシャルワーク実習 「専門職」として

関わるということ

子ども支援コース3年 増山 奈央

私は、高齢児を対象とした児童養護施設で、24日間の実習を行いました。配属先は、本園にある4ホールのうち2ホールと、地域にある戸建てを改築したグループホームの計3ホールです。そのため、1ホールの定員は6名ですが、小学生・専門学生までの計17名の児童と関わることで、各ホールの生活の違い等も学ぶことができました。実習は、主に14、22時に行われ、児童の帰宅の受け入れをした後、宿題の見守りをしたり、一緒に遊んだり、家事をする等して過ごしました。食器洗いや洗濯、掃除等の家事は、一見雑用のようにも思えるかもしれませ

抑うつ病などのさまざまな精神疾患を抱えて入院されていた方々でした。一人ひとりの患者さんとの会話のやりとりを、「プロセスレコード」と呼ばれる記録用紙に逐語でより正確に記入していくことにより、患者さんご本人のストレーンを考え、まとめる技術を習得することができました。面会を通じた実践経験を日々積み重ねていく中で、個々の患者さんが求めている真のニーズとは何か、精神保健福祉士には情報のどこに焦点を当てて深掘りし、アセスメントしていくことが求められるのかを常に考えながら取り組んでいきました。こうした中で、実習指導担当者の方と振り返る機会を随時設けていただき、自分に足りないスキルは何か、より正確に

抑うつ病などのさまざまな精神疾患を抱えて入院されていた方々でした。一人ひとりの患者さんとの会話のやりとりを、「プロセスレコード」と呼ばれる記録用紙に逐語でより正確に記入していくことにより、患者さんご本人のストレーンを考え、まとめる技術を習得することができました。

自己覚知を深めていくことができました。今回の実習全体を振り返って、自ら自主的に現場での実践経験を積み重ねていくこと、そこから原点に立ち返り、自己覚知を深めていくことが専門職としての基礎的な土台となるのだと学びました。新型コロナウイルスによる感染の影響が拡大している中、12日間というとても短い期間の中で充実したプログラムを経験させていただいたことに深く感謝をしています。大変な状況の中で実習させていただいたという感謝の気持ちを忘れずに、これから始まるNPO法人での実習においても、今回の学びを活かしてがんばりたいと思います。

ん。しかし、①児童のアセスメント(情報収集と評価)を行う大切な機会であること、②安心して過ごしてもらうためにも、環境整備は大切であること、③そのような間接的な支援の積み重ねが、関係性を構築する上で大切であることを学びました。

児童養護施設については、これまで大学の講義で学びましたが、どこか実感が持てずにいました。しかし、今回実習を行い、児童や職員と関わる中で、初めて児童養護施設で暮らすということについて、実感を持つことができました。実習中は、児童との関わり方に悩むこともあり、自身の性格や価値観等の「人間性」と、求められる「専門性」との間で葛藤を経験しました。その度、「専門職」として関わるということについて、改めて考えさせられました。答え

は出ませんでした。しかし、次第にそれは、「専門職」として働く中で、見つけていくものなのではないか」と考えるようになりました。職員も、時に児童との関わり方に悩むことがあるそうです。それでもなお、児童の幸せを願い、根気強く向き合い続ける姿に、尊敬の念を抱きました。

私は将来、不登校児の支援に携わりたいと考えています。今回の実習で学んだことを活かし、私という一人の人間として、そして専門職として、児童一人ひとりに寄り添う支援者になりたいです。今後は、社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得を目指し、より一層精進したいと思っています。

オンラインによる 保護者を開催しました。

事務局長 坂田 好和

今年度の保護者会は8月5日(土)にオンラインで行いました。例年は6月末に行っていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が心配され、一度は中止を検討しましたが、少しでも大学の様子を伝え、学生の様子もお聞きできればと思い実施しました。



石居学長から「ルーテル学院今、そしてこれから」をテーマに前期のオンライン授業を振り返るとともに、後期の授業実施の方針などを説明しました。その後、コース別の懇談会を行い、学生の様子をうかがうなど情報交換もすることができました。参加していただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

前期卒業式報告

学生支援センター長 村上 秀紀



9月30日に前期末卒業式が挙行され、人間福祉心理学科2名の学生が卒業しました。

策の上、例年通りチャペルにて、保護者、教職員が参列して開催されました。石居学長の説教「愛の教え」、聖歌隊の奉唱に続き卒業証書授与が行われ、田副学科長が2名の卒業生の名前を紹介し、学長より一人ひとりに卒業証書が授与され、祝辞が贈られました。

式典後は、今年度前期が新型コロナウイルス感染症の影響で全科目遠隔授業となり直接会えなかった所属コース教員と歓談し、記念写真を撮り、大学を巣立っていきました。



前期の図書館の 取り組みについて

前期はキャンパス立入禁止となったため、図書館も通常開館ができなくなりました。そのため、学外からでも利用できるオンラインサービスに力を入れました。電子書籍や新聞記事データベースについて、通常は学外利用できない契約のものもID/パスワードを発行して学外から利用できるようにし、また試験トライアルを行って利用できるタイトル数を大幅に増やしました。5月中旬からは図書の送付貸出や文献複写



送付サービス(いずれも大学が費用負担)を行いました。6月下旬からは予約制にて館内利用を再開しました。メールや電話で質問を受けるなど、できる限り学修支援に努めました。やはり学生の皆さんが十分に利用できる環境でなかったことは否めません。後期は通常開館していますので、是非活用してください。お待ちしております。

行事予定 12月~3月

12月19日(土)	総合型選抜Ⅲ期入試	2月3日(水)	一般試験型入試
12月22日(火)	通常授業終了	2月5日(金)	一般試験型入試
1月6日(水)	授業再開	2月24日(水)	総合型選抜Ⅳ期入試
1月25日(月)	通常授業終了	3月11日(水)	卒業式
1月28日(木)	スカラシップ型入試	3月13日(土)	総合型選抜Ⅴ期入試

「学院だより」 発行時期変更の お知らせ

2021年度から6月、9月、12月、翌3月の発行となります。次号は6月1日発行です。

入試日程

選抜方式	区分	試験日	合格発表
総合型選抜	Ⅲ期	12/19(土)	12/23(水)
	Ⅳ期	2021/2/24(水)	2021/2/26(金)
	Ⅴ期	2021/3/13(土)	2021/3/13(土)
一般選抜	スカラシップ型	—	2021/2/3(水)
	一般試験型	A日程	2021/2/3(水)
		B日程	2021/2/5(金)
	大学入学共通テスト利用型	I期	2021/2/12(金)
		Ⅱ期	2021/2/26(金)
		Ⅲ期	2021/3/13(土)
社会人入試 (1年次、編入学)	Ⅱ期	2021/2/3(水)	2021/2/12(金)
	Ⅲ期	2021/3/13(土)	2021/3/13(土)
	Ⅳ期	2021/3/13(土)	2021/3/13(土)
編入学入試	Ⅱ期	2021/2/3(水)	2021/2/12(金)
	Ⅲ期	2021/3/13(土)	2021/3/13(土)
留学生入試 (1年次、編入学)	Ⅱ期	2021/2/3(水)	2021/2/12(金)
	Ⅲ期	2021/3/13(土)	2021/3/13(土)

入学試験要項・願書は大学のホームページからダウンロードしてお使いください。入試、個別相談についてご質問のある方は下記までお問合せください。

(お問合せ先)
メール 入試 admission@luther.ac.jp TEL: 0422-32-2949
個別相談 koho@luther.ac.jp FAX: 0422-33-6405